

新潟縣小學作法書

中野豐記  
中澤中

編輯  
三四

新鴻縣小學作法書卷の三

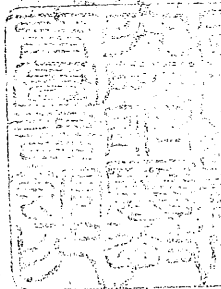
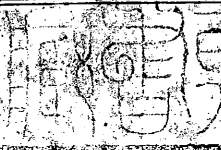
中野豊記

中澤 中

編輯

総て物を扱ひ事をなすにハ心を用ゆ  
るを第一とす、

何事にも男子ハいさましく執り行  
ひ、女子ハやもらふに、仕習ふべし、  
平生慎みて、ちやりことを、又ハいやし



ま詞などを遣ふべからば、

詞ハ丁寧にして、まをやかたをぶ。

人と話をときハ人を止めて、己れのみ

語らんと勿き。

己れの談話中ありとも、他人言を出き

ときハ、己きあむらく止めて、之を聞く

べし。

人の、悪事を談ト、又ハ人を評すること

なかれ。

己れの、解せざる事ハ、人ハ話をべから

ず。

多言ハ、人に嫌をもくものおれハ、無用

の談話を、なまづべからば、

凡て、話を為さんとする時ハ、先づ能

く、心を沈め、順序を逐ふて、徐ふ語らべ

し。

不具の人にも勿論其家内の人のみをも  
之に類したる話しにあらざれば  
不具の人たゞも決して悔り笑ふべ  
あらば  
人に過ちあるとも之を笑ふべあらば  
我より賤しき人なりとも決して見下  
すべからば  
人の話しの中みは志むく問ひ返す

べからば、

話し疑もしき所又ハ聞き落したる  
所あらば話し終りて之を聞くべし  
人の談話ハ假令をかき事ありとも  
決して笑ふべからば  
凡て人の話を聞く時ハ心を沈めて他  
事を思ひ考ふべあらば  
障子襖ハ跪きて徐に開閉すべし

閉ぢ盡さずして、少しく、開き置くべからば、

己れの開きたる時ハ、必ず閉づべし、  
板の間などにしてハ、腰を屈めて、開閉を  
べし、

衣服ハ、一所にありて、徐小着るべし、  
衣服ハ、襟と、前とを整へ、袴ハ、前と、後と  
揃ふべし、

帯ハ、縫目を下小なり、能くのこゝを志め、  
正しく結ぶべし、

人の前ふて、襟を整へ、又ハ、帯を仕直さ  
べからば、

衣服の善悪を、いふべからば、

人の衣服の善悪を、評まづからば、

己れ、好き衣服を、着たりとも、決して、人  
に、たのぶるべからば、

湯に入るときは、先づ能く全身を洗ふべし。混浴に入りたる時、己を熱しとて、妻りに水を入れしむべからば、湯又ハ水を散らして人に及すことなかき、湯の内において、たゞの聲を發さべからば、

湯の内外とも、他人の妨げをおぼせべからば、人の家には、案内を請はずして、入らば、

席に著く時ハ、我々坐まづき所より、少下りて坐まべし。座に就く時と、起つ時ハ、必ず會釋まべし。

人の往来すゞき所に於て坐すべからば、物ふよ里、又ハ人の前に坐すべからば、尊長より問をもく事ありとも、已れ、差し出で、答ふべからば、

祝の席に在り、不吉の事をいふべからば、取次お出でたる時ハ、坐し、拜禮まぐ

りて出づを、取次をお出でたる時ハ、たすき、まんだれを取

客の帽子、襟巻などハ、踏まざる所、お収め置くべし、

客ある時ハ、犬、猫たりとも、たゞ聲にて、叱つべからば、

書状などの、軽きものを、進むりに、跪きて、向をおほし、左の手に据ゑ、

右の手を添つて進むべし、  
書物の、跪きて、下に置き、向を直し、推し  
て進むべし、

檯の上へ進むるに、腰をかぶめて、一  
且、檯の上へ置き、向を直し、推して進む  
べし、

若し、脇より進むる時、腰をかぶめて、  
客の左の脇へ置き、向を直さざりて、横

へ推して進むべし、

書物を下げるとき、跪きて、少し引寄せ、  
向きをなほし、両手に持ちて、立ちかへ  
るべし、

檯の上より、下げるに、腰をかぶめて  
なほし、

若し、脇より下げる時、左の脇より、横  
に引寄せ、向を直さずして、持ちかへる



づし、

煙草盆を出すに、火入を客の左りに  
かゝり、跪き、下ふ置き、推して進むづし、  
煙草盆を下げる時、客の前に跪き、兩  
手にて、少く引き寄せ、持ち立て立ちかゝ  
るづし、

火鉢を出まゝ、煙草盆の如くにきかゝり、  
若し、足ある時、二つの足を客の方に、

向くづし、

凡て、足の三つある物、客の方に、二つ  
の足を向くを、

茶を進むるに、左の手ふ据ゑ、右の手  
を添へ、跪き、出すづし、

客若し、茶碗の口を取ら、臺を持ち、  
かつるづし、

杖傘等を進むるに、左の手にて、中程

を持ち、右の手にて、末を少しく下げ、  
持つべし。  
手袋を進むるに、指さまを、手前か  
し、左の手に、据ゑて、出さべし。  
小刀を進むるふ、柄を向ふにか、左  
の手に、据ゑて、出さべし。  
菓子を食べるに、両手の指めて、二つ  
に割り、右の方より、食ふべし。

饅頭などの、中かあんあるもの、之を  
散らさぬ様に、喰ふべし。  
菓子を喰ひ餘したる時、紙か包みて、  
右の袂か入るべし。  
茶を受むに、両手にて取り、一旦、下に  
置くべし。  
茶を呑むふ、茶碗を、右の手にて取り、  
左の手を、下にあつべし。

新潟縣小學作法書卷の三終

新潟縣小學作法書卷の四

中野豊記

中澤 中 編輯

人行儀を正しくせんと欲せば、必ず先づ心を正しくせよ。

心正しからざる時ハ、如何に作法を知りたりとも決して之を行ふ事能はず、尊長と道を同ドク行く時ハ後に従ひ